

(1) ホイスト式

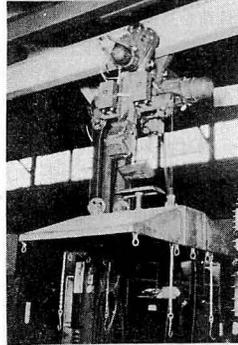
ホーム上に脚または鉄塔を立てその間に走行けたを架設し、これに走行路を取り付け手押車をつり下げたホイストがこの走行路を走って線路を横断をする。

ア 単軌条式テルハ

走行けたにはI型鋼を取り付けつぎのような構造機能のホイストが走行するものである(図-1・2)。

(ア) 巻上装置

鑄鉄製わく内に組立てられ、巻上電動機により巻胴を回転する構造で、機械制動機および電磁制動

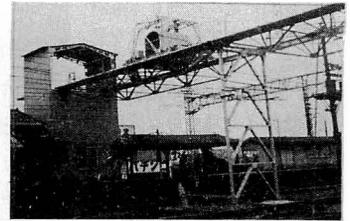


1. 単軌条1t跨線テルハ

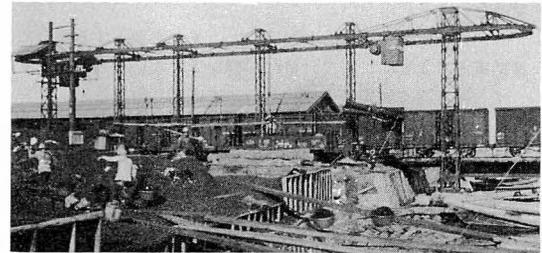
上を走り、万一の場合にも荷物が直接架線線上に落下しないように改良した型式を用いる。巻上走行用電動機はいずれもトロリに設備されている。運転操作は前記のものと同じであるが、とくに制御動作を直流によって行う方法をとっている。

2 貨物テルハ

貨物駅および臨港駅に貨物専用設備されたテルハで、これはホイストに運転室が付属して移動する運転室操縦型(図-4)と、



3. クラプトロリ式テルハ



4. 貨物テルハ

運転室が脚に固定されている遠方操縦型とがある。扱荷重は2tが多い。すべて単軌条であり、ホイストの構造は単軌条跨線テルハのホイストと同じであるが、操作は運転手が制御器のハンドルを回転することにより任意の所で停止・昇降・走行の動作を行い得る。機能はつぎのとおりである。

(1) 運転室操縦型

巻上荷重	2t	巻上用電動機	7.5HP(特殊籠型)
巻上高さ	12m	走行速度	100m/mn
巻上速度	8.5m/mn	走行電動機	5HP(巻線型)

(2) 遠方操縦型

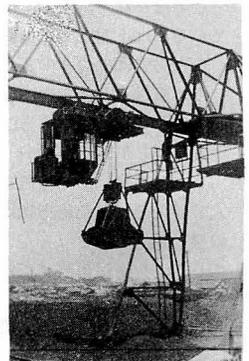
巻上荷重	2t	巻上高さ	12m
巻上速度	12m/mn	走行速度	60m/mn
巻上電動機	7.5HP(特殊籠型)	走行電動機	3HP(特殊籠型)

3 つかみ付テルハ

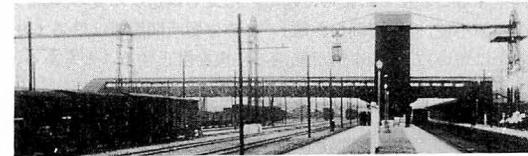
石炭の取扱量の少ない機関区および庁舎のボイラの給炭用として簡易なつかみ付のテルハを設備している。これは型鋼製のわく組に電動走行車輪、巻上およびつかみ開閉用ホイストをつけ、運転室と連結したもので、走行けたに取り付けたI型鋼に懸垂して移動するものである。各動作は運転室内の制御器による(図-5)。

主要機能はつぎのとおりである。

つかみ容量	石炭 500kg
揚程	6m
巻上速度	12m/mn
電動機	巻上・開閉・走行用各 5HP (井田緑郎)



5. つかみ付テルハ



2. 単軌条跨線テルハ

機を備える。ロープは4本がけで下端に天蓋(てんがい)をつるし、その下に手押車をつるす。所定の高さまで巻上げて自動停止し走行動作に移るため、巻上制限スイッチおよび走行用スイッチが設けられ、自動的に電気回路の切りを行う。

(イ) 走行装置

巻上装置の上部に走行装置を設ける。走行車輪は4輪でI型鋼をだきかかえて走行用電動機により駆動され、電動機の反対側に電磁制動機を取付ける。

(ウ) 機能

巻上荷重	1t	走行速度	60m/mn
巻上速度	14m/mn	走行電動機	3HP
巻上電動機	5HP		

イ 複軌条式テルハ

単軌条式テルハは走行中前後左右に大きくゆれる欠点があるのでこの欠点を減ずる目的で複軌条式ができた。走行けたにみぞ型鋼軌条を2本取付け、その間隔を1.300mにし、走行車輪をだきかかえる。巻上装置、走行装置を別々に型鋼のわく組に取り付ける。運転操作は単軌条式テルハとまったく同じである。

(2) ロープトロリ式テルハ

雪の多い駅では走行軌条に雪が積ったり氷結するため、ホイスト式のテルハでは走行が困難な場合が多い。このような所ではロープトロリ式の跨線テルハが適している。これは走行けたに複軌条を取付け、懸垂型トロリが走行するもので、巻上および走行装置は塔上部の機械室に収められる。トロリと各装置はワイヤロープで結ばれ、ロープを巻取ることによって、荷の巻上および走行を行う。運転操作は前記のテルハとまったく同じである。おもな機能はつぎのとおりである。

巻上荷重	1t	走行速度	70m/mn
巻上速度	25m/mn	走行電動機	3.7KW
巻上電動機	5KW		

(3) クラプトロリ式テルハ

跨線テルハはすべて走行中に不意に荷物が降下することがないように、十分な保安装置を付してあるが、電化区間では架線に対する保安がとくに強く要求されるので、(図-3)に示すように手押車をケージの中に入れたクラプトロリが網を張ったけた

テレメーター (英) telemeter 測定すべき物または現象より遠く離れた場所において行う測定を遠隔測定といい、これに用いる電気計器をテレメーター(遠隔電気計器)といっている。一